

オを制作しました。教師が携わったのは撮影と編集のみ、アイデアを出し合い、脚本を書き、実際に制作したのは生徒達です。Body Smart な人は、運動が得意だったり、手先が器用だったり、People Smart な人は、誰とでも仲良くするのが上手だったり、といった、それぞれの Smart の特性を分かりやすく表現した楽しいビデオが出来上がりました。出来上がったビデオは、小学部の Assembly で上映され、大好評を博しました。人はみんな違う特性を持っていてそのどれもが素晴らしいのだということ、誰もがその特性をいろんな形で生活に活かしたり、人のために役立てたり出来るということが、他の学年の生徒にも伝わったようです。

Units of Inquiry (探究の単元)

- Who we are (私達は何なのか)
- Where we are in place and time
(私達はどのような時代、場所に生きているのか)
- How we express ourselves
(私達はどのように自分を表現するか)
- How the world works (世界のしくみ)
- How we organize ourselves (社会の構造)
- Sharing the planet (地球を共有すること)

●「何を学ぶか」より「どのように学ぶか」

IB プログラムの特徴でもあります。PYP も、どの学年で何を学習するのかがある程度決められているような、どの学校にも当てはまる統一的なカリキュラムではありません。各学校の文化やコミュニティの価値観、信念を尊重し、何をどのように学習するかを決めるのはそれぞれの学校に委ねられています。「何を学ぶのか」を中心に組み立てられたカリキュラムで育った世代には、「何を」がはっきりしない PYP に不安を感じるかも知れません。しかし、めまぐるしく変化する世界の中で未来を担う今の子ども達が必要とするのは、決められたことを暗記する画一的な教育よりも、考える力、応用力、情報収集力、分析力、表現力ではないでしょうか。従来のカリキュラムが教える側の目線からの教育だったとしたら、PYP は、それぞれの子どもの知識、経験、特性を意識した、学ぶ側の目線に立った教育だといえるでしょう。

生徒達は、この探究の過程で、教科書からは学べない様々なことを学びました。身近な題材や既存の知識に関連づけたからこそ、理解が深まり、今後の学習にも生きてくるはずです。学習の題材は、教室の中だけでなく、身の回りにあふれています。生徒達には、いつでも、どこでも、いくつになっても、学ぶ姿勢を持ち続ける探究者であって欲しいと願っています。

名古屋国際学園 学校概要

名古屋国際学園（名古屋インターナショナルスクール）は、中部地方で唯一、全課程で米国西部地域学校大学協会（WASC）及び、国際バカロレア・ディプロマプログラム（IBDP）の正式認可を受けたインターナショナルスクールです。

愛知県だけでなく近隣の岐阜県、三重県からも、25 力国以上、約 320 名の生徒が通学しています。授業は全て英語で行われます。



Data

創立 / 1964 年、生徒数 / 約 320 名

設置学部 / 幼児教育部（3～4 歳児）、小学部（キンダーガーテン～5 年生）、中等部（6～8 年生）、高等部（9～12 年生）

認可 / 米国西部地域学校大学協会（WASC）

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム（IBDP）

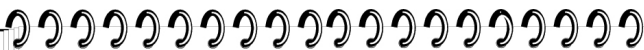
※ 2011 年 国際バカロレア・初等教育プログラム（IBPYP）認定予定

スケジュール

米国の標準的なカレンダーに準じ、始業は 8 月下旬、終業は 6 月中旬となっていますが、入学選考基準を満たしていれば、編入は随時可能です。

卒業後の進路

卒業時には、アメリカのハイスクール卒業と同等の資格が得られるとともに、国際バカロレアのディプロマ資格を取得するチャンスもあります。卒業生の多くは、アメリカ、カナダなど英語圏の大学に進学します。近年では、早稲田大学、上智大学など、英語のプログラムがある日本の大学に進学した生徒もいます。



学校法人 名古屋国際学園

名古屋インターナショナルスクール

〒463-0002 名古屋市守山区中志段味南原 2686

TEL : 052-736-2025 E-mail : info@nis.ac.jp

http://www.nagoyais.jp/japanese (日本語)



「質問する」が Inquiry の基本的な意味です。様々な事柄に対して、自分自身と他の人に「質問」をする「学び方」が IB プログラムと欧米の教育の基本であり、NIS のカリキュラムの理念です。

「知識・情報」が急激に増え続ける社会でサバイブしていかなければならない子ども達に欠かせないのは、この「質問する」学び方です。

今年 4 月からの新指導要領で「ゆとり教育」を放棄して学習量を増やす日本の学校教育は、そして「学び方」はどう変わのでしょうか？